

授業科目(ナンバリング)		社会科地理歴史科教育法 (QB225)		担当教員 担当形態		池永 正人 単独			
教員免許状取得のための選択の別	社会(中)及び地理歴史(高):必修	単位数	2単位	開講年次	2年	展開方法	講義	開設時期	後期
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 社会、高等学校 地理歴史)								
各科目に含めることが必要な事項	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)								
授業のねらい									アクティブ ラーニング の類型
中学校・社会科及び高等学校・地理歴史科の教育内容の変遷に関する基礎知識を習得するとともに、学習指導案の作成と模擬授業を通して教授法を身に付ける。									④⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法		評価比率	
専門力	地理・歴史教育の内容や変遷に関する基礎知識の習得と、学習指導案の作成や模擬授業を通して教授法を身に付けることができる。					定期試験 学習指導案		20% 10%	
情報収集、分析力	社会情勢に対応した地理・歴史教育のあり方を考えることができる。					定期試験		20%	
コミュニケーション力	地理と歴史に関する自然科学や人文・社会科学の幅広い知識を習得し、分かりやすい言葉で説明することができる。					模擬授業		10%	
協働・課題解決力	模擬授業の参観者は、生徒と評価者の両者の立場で授業評価を行い、授業者に対して適切な助言を述べるができる。					模擬授業		20%	
多様性理解力	社会の多様性が、空間的な地理事象と時間的な歴史事象の結合によって形成されていることを具体的に説明できる。					定期試験		20%	
出席						受験要件			
合計						100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明									
評価は、定期試験、学習指導案の作成及び模擬授業を総合して行う。模擬授業については、6分類19項目から構成する評価表を用いて評価し、その結果を本人に提示して授業改善に活用させる。									
授業の概要									
講義を中心とするが、本授業の終盤及び後期の地理歴史科教育法における学習指導案の作成・模擬授業・討論など演習形式の授業と連携させる。また、パソコンを使って地図・主題図・統計グラフ・表の作成技法を習得する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。									
教科書・参考書									
教科書：社会認識教育学会編『地理歴史科教育』（第1版第4刷）、学術図書出版社、2016年 参考書：文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省『高等学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領』 指定図書：授業において適宜紹介する。									
授業外における学修及び学生に期待すること									
この授業は、高等学校地理歴史科のみならず中学校社会科の教員免許取得希望者も必修科目である。中学校社会科教員免許取得希望者は、中学校の地理・歴史教育との違いをしっかりと学んでほしい。 地理・歴史学習で大切なことは、現地の事情や史実を正しく理解することである。この学生時代に観光研修や休日を利用して旅行に出かけ、見聞を広めてほしい。									

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	地理・歴史の教科書	中学校及び高等学校の地理・歴史の教科書について解説する。	予習：この授業の教科書第1章読み 復習：地理・歴史教科書の構成
2	地理・歴史教育の意義と課題	空間的・時間的に隔たった事象の解釈を通じて、生徒自身の思想形成に資する地理・歴史教育の意義と課題について考える。	予習：教科書第1章読み 復習：地理歴史教育の意義と課題
3	地理・歴史教育論・実践の歴史	知識注入型、思想統制型、市民性型の地理・歴史教育を概説する。	予習：教科書第2章読み 復習：地理と歴史の相関
4	地理教育の歴史(1)	明治・大正・昭和前期（第二次世界大戦）までの近代の地理教育について講義する。	予習：学制と中学校令の内容 復習：戦前の地理教育
5	地理教育の歴史(2)	昭和後期（戦後）から平成にいたる現代の地理教育について解説する。	予習：教育基本法と学校教育法の内容 復習：戦後の地理教育
6	歴史教育の歴史(1)	明治・大正・昭和前期（第二次世界大戦）までの近代の歴史教育について講義する。	予習：国史と皇国史の内容 復習：戦前の歴史教育
7	歴史教育の歴史(2)	昭和後期（戦後）から平成にいたる現代の歴史教育について解説する。	予習：通史教育の意味 復習：戦後の歴史教育
8	地理・歴史教育の目標	現代社会における地理・歴史教育の目標が、文化理解を通じた国際的資質の育成にあることを理解する。	予習：教科書第3章読み 復習：文化理解と国際的資質の意味
9	中学校と高等学校の地理学習の内容	地誌学習と系統地理学習の内容について解説する。	予習：教科書第4章読み 復習：地誌と系統地理の違い
10	中学校と高等学校の歴史学習の内容	通史学習、特殊史学習、倒叙学習の内容について説明する。	予習：中学校と高等学校の歴史学習の内容 復習：3学習方法の違い
11	学習指導案の作成方法 (中学校と高等学校の相違)	「わかる授業」を実践するために不可欠な学習指導案の作成方法について、豊富な事例を示しながら解説する。	予習：例示の学習指導案読み 復習：学習指導案の作成
12	学習指導案作成の個別指導	教育実習に向けて、受講者全員に模擬授業をしてもらう。そのための学習指導案の作成は、個別に指導する。	予習：学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
13	学習指導案作成の個別指導と模擬授業(1)	情報機器を効果的に活用しながら受講者による模擬授業を実施し、聞き手による授業評価を行う。	予習：学習指導案の作成 復習：模擬授業の評価・反省
14	学習指導案作成の個別指導と模擬授業(2)	受講者による模擬授業の実施と、聞き手による授業評価を行う。単位レポート執筆の指示。	予習：学習指導案の作成 復習：模擬授業の評価・反省
15	まとめ	地理・歴史教育の内容について執筆したレポートを、口頭で発表してもらう。	予習：レポート執筆と発表準備 復習：指摘内容の整理
16	定期試験	地理・歴史教育の専門用語の知識を問う。	教科書とノートの内容を復習